165. 屋内緑化用造園植物の選定

横山 奉三郎 石井 芳夫
(埼玉県花植木センター)

1. はじめに

造園植物として利用される植物は多種にわたり、その生産量も多い。今日の屋内緑化には亜熱帯産の観葉植物が主に利用されている。快適で変化に富んだ質の高い屋内環境を創造するには造園植物を含む多くの植物材料の利用が必要がある。

本研究において、屋内における約 500ルクスの照度下で、観賞性が約 1 年間、維持できる造園植物が選定されたので、これらの造園植物を屋内緑化に利用することが可能になったことを報告する。

2. 試験方法

- (1) 試験場所：埼玉県花植木センター内（埼玉県深谷市）
- (2) 供試植物：常緑広葉樹：アオキほか 23 種、落葉広葉樹：アキニレほか 13 種
地被植物：オカメツタほか 7 種
- (3) 供試材料の準備：平成 5 年 3 月 26 日、赤土：腐葉土 = 3 : 1 の組成からなる用土を用いて、ビニールポット（直径 15 cm）に植え替え、5 月 31 日までの間、屋外の自然条件下で育成した。
- (4) 遮光順化处理：低照度への順化处理として、6 月 1 日～6 月 30 日の 1 ヶ月間は 95 % 遮光下に置いた。
- (5) 屋内条件 光源：40ワット白色蛍光灯、樹冠部の照度：500ルクス
 平日の室温 夏期：23～28℃、冬期：10～20℃
 （空気調節装置を作動した。）
 休日の室温 夏期：25～32℃、冬期：6～15℃
 （空気調節装置を作動しなかった。）
- (6) 植物管理：適宜、灌水した。病虫害防除は休日の前日の夕刻に行った。
- (7) 観賞性調査：葉の褐変、落葉、萌芽等を毎週調査し、観賞可能な期間を求めた。
- (8) 観賞可能な期間：葉の褐変や落葉が入室時葉数の 30 % 相当に達するまでの期間を観賞可能期間とした。

3. 結果

- (1) 利用可能な種類（屋内で約 1 年間、観賞性を維持した植物）
常緑広葉樹：アオキ、イヌツゲ、カクレミノ、カラタネオガタマ、クチナシ、ゲッケイジュ、コウジミカン、サカキ、シラカシ、ツケ、ツバキ、ツルマサキ、トウネズミモチ、ナンテン、ハマヒサカキ、ビワ、ニッケイ、ヒイラギナンテン、マサキ、マサキ（キフクリンマサキ）、マンリョウ、ヤツデ
落葉広葉樹：アキニレ、イチョウ、イロハモミジ、ザクロ、ナツメ、カキ、ヤマコウバシ
地被植物 オカメツタ、オリヅルラン（ナカフヒロハオリヅルラン）、ハラン、リュウノヒゲ、ヤブコウジ、ヤブラン
- (2) 利用困難な種類（屋内へ搬入後、短期間で観賞性を失った植物）
常緑広葉樹 キンモクセイ、チャ
落葉広葉樹 ウメモドキ、エゴノキ、カツラ、ドウダンツツジ、ナツツバキ、ネコヤナギ、ハナミズキ
地被植物 テイカカズラ、ビグノニア

Garden plants for the indoor greenery, Tomosaburo Yokoyama and Yoshio Ishii